

# 『自治会ぐるみの総合的な獣害対策』～自分達にできることの積み重ねで実現～

## —香川県さぬき市豊田自治会—

- 「獣害のない自治会を次の世代に残したい」との思いから有志が立ち上がり、自治会ぐるみの取組に発展。
- 4 kmの侵入防止柵と幅広の緩衝帯（鳥獣ストップゾーン）や柵沿いの管理道の整備で、見晴らしが良い集落環境となり、野生獣が近寄りにくい集落づくりを実現。

### 豊田自治会の課題

- 平成7年頃、自治会全域にイノシシやサル(群)が出没し始めた。
- 個々での対策では、十分な効果はなく、次第に耕作を諦める農地ができる。
- 非農家の庭先にも出没する。

農作物被害の拡大

集落環境の悪化

- 自治会の将来に危機感を覚えた有志が自治会ぐるみでの対策を呼びかけるも、住民個々の意識のズレや、経費面で折り合いがつかず断念。


### 主な対策

- 「自家野菜を食べたい」有志4戸が共同家庭菜園を設置(平成18年) **効果あり**
- 東讃農業改良普及センターとさぬき市が獣害対策について技術的支援(平成18年)

経費負担の軽減

支援体制の整備

### 自治会ぐるみの取組スタート

- ①鳥獣ストップゾーンの設置（平成18、19年度、940m）  
〔5 m～10m幅の緩衝帯  
WM柵+電気柵の複合柵  
柵沿いの管理道整備〕
- ②自治会を囲む侵入防止柵の設置と高度化（延長4 km）
- ③柵の維持管理体制づくり(年3回の草刈)
- ④積極的なサルの追払い(ロケット花火)
- ⑤集落に接近するイノシシを、柵外で捕獲（自治会内狩猟者）

### 対策の効果

#### 【被害の減少】

イノシシ：平成23年以降ゼロになる  
サル：群れの出没はなくなり、ハナレザルによる散発的な被害のみ

人と野生獣が棲み分けできるレベルに！

#### 【住民の変化】

- ①あきらめかけていた獣害問題を解決でき、住民の大きな自信になった。
- ②営農意欲が回復し、1207-ルが復田した。
- ③非農家を含めた取組みで、集落に一体感が生まれた。

対策の効果を実感

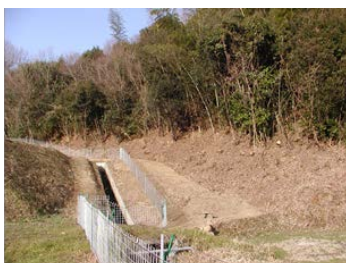
営農活動の復活

農作物生産の安定化

集落営農組織を立ち上げ  
(平成27年3月)



鳥獣ストップゾーン  
設置前(左)設置後(右)



# 『自治会ぐるみの総合的な獣害対策』～自分達にできることの積み重ねで実現～

## ～香川県さぬき市豊田自治会～

### きっかけ

イノシシやサルの出没で営農活動が衰退し集落環境が悪化する中で、自治会の将来を憂う有志の思い

「自家野菜を食べたい」  
(自治会有志)

視察は、野生獣に向けた貴重な人圧、住民に向けては刺激。

### Step1 (H18)

#### 始まり

- 有志が共同家庭菜園を設置。  
**効果あり!**
- 普及センターとさぬき市が支援開始。

### Step2 (H18、19)

#### 対策の基本形

- 鳥獣ストップゾーン設置モデル事業(県)に取組み、緩衝帯+侵入防止柵+管理道路を一体的に整備。
- 豊田自治会が行う**獣害対策の基本形が定まる。**

### Step3 (H18～)

#### 集落ぐるみの取組み

- 中山間地域等直接支払交付金等(国)を活用し、**自治会を囲む侵入防止柵を設置。**

被害が減少し効果を実感。達成感とともに「次はこの対策をしようか」と前向きな意見

冬場の恒例行事

### 取組に当たっての秘訣

- 自治会住民の能力、技能を生かした全員参加の取組が有効(役割と出番の確保)
- 自分達にできること(無理のない対策)で確実に効果を出すことが、モチベーションの維持につながる
- 世代を超えた交流(ふれあいサロン活動)で、自治会全員が獣害問題を共有
- リーダー3人のけん引力

### 今後の課題

- 十数年間の取組を継続
- 次世代への引継ぎ

取組を経て…

### Step5 (H27～)

#### 営農活動の再構築

- 集落営農組織の立ち上げ**  
(平成27年3月)
- 家庭菜園、果樹園の充実**

### Step4 (H23～)

#### 総合的な被害防止体制の完成

- 侵入防止柵の**ルート変更と高度化**
- 柵の**維持管理体制づくり**(日常管理と年3回の共同草刈)
- 積極的な**サルの追払い**
- 集落に接近する**イノシシの捕獲**

